



みんなとともにサロン活動 10年つづく

敷地内に大きな木や藤棚があり、憩いの空間が広がる南青ハイツ。1970年代に建てられたマンションです。今でも約6割の人が当初からの住人です。都会にあって緑が多く、みなさん住み心地がよいと話されます。

そんなマンションの集会室で、10年位前から、住人を対象に月2回サロンの活動が続いています。

代表の方にお話を伺いました。



代表の新田さん



「あら待っていたわよ」と参加者を温かく迎えてくれます

さりげなく「気にかける」

「参加者の多くは、活動を始めた時からの参加者ですよ…」と活動を支える代表の新田さん（元民生委員）。「民生委員になった時、住人同士があいさつ程度の関係しかないと感じて、マンション理事会に相談して住人の集まる会を年に2回開催することにしました。そのうちに社会福祉協議会のサロン活動を応援する事業が始まり、さっそく相談、登録して毎月の活動が続いています」と、まずはお互いを知りあうことを目的に始められたそうです。

「最初のころは、毎回いろいろなプログラムを考えて活動していましたが、より多くの方が気負いなく参加できるようにと考えているうちに、現在の形になりました」と話されるように、サロンはおしゃべりが中心になっています。サロンに参加することで、その時々の情報交換もでき、お互いが最近の様子をさりげなく「気にかける」ことを大切にされています。



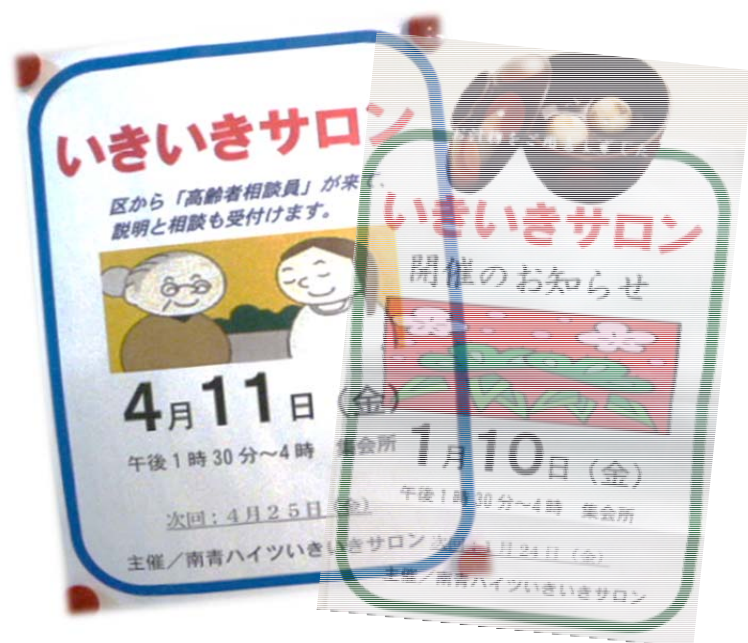
近くの人との話に花が咲いています

「やさしい人ばかりだから」

最近では、赤ちゃんを連れたママが参加して、高齢者にとっても喜ばれたり、男性の参加が増えたりするようになりました。「マンション理事をやった時に、このサロンのことを知り、理事任期も終わった後、住人と会う機会がなくなったので参加するようになりました」と話す男性参加者。

いろいろな人の輪が、サロンを通じて広がっているようです。

「やさしい人ばかりだから、いつまでもここで暮らしたい」と話す参加者をあたたかく見守る雰囲気はサロンに流れていました。



チラシはマンション管理人の方が作ってくれています